

第2章 ごみ処理基本計画

1. 基本目標と基本方針

(1) 基本目標

前章までの背景や現状を踏まえた上で、ごみ処理に係る課題に対処し、環境負荷を低減するためには、ごみの排出者となり得る全ての者がごみの減量から最終処分に至るまでの過程において、それぞれの立場で必要な役割に取り組み、資源循環型の地域社会をつくりあげていく必要があります。

このことから、この計画の基本目標を「市民・事業者・行政の協働による循環型社会の形成」とします。

市民・事業者・行政の協働による循環型社会の形成

① 市民（消費者）の役割

市民一人ひとりが、ごみの排出者であるという自覚を持ち、生活習慣を見直し、発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の3Rや適正排出に努めるものとします。

② 事業者の役割

事業者は、生産、流通、販売等の各段階でその事業活動スタイルを見直すなど、市民とともに3Rに努めるほか、自身にごみ処理責任があることを自覚して法令等の理解を深め、適正な処理に努めるものとします。

③ 行政の役割

市は、市民や事業者との協働により3Rに取り組みやすい環境やシステムを整備するとともに、市民の視点に立って、ごみの適正処理に必要な施設の維持や事業の効率化に努めるものとします。

(2) 基本方針

この計画の基本目標の達成に向けて、市民、事業者、行政の役割を踏まえ、「環境」・「社会」・「経済」という3つの視点から次の4つの基本方針を定め、具体的な施策を実施していきます。

基本方針1 3Rの推進

大量生産・大量消費・大量廃棄型の生活スタイルから脱却し、循環型社会の形成に向け、ごみの発生抑制、再使用及び再生利用の3Rの取り組みを推進します。

基本方針2 適正なごみ処理の確保

安全で安心なごみ処理体制を確保し、ごみの収集運搬・処理・処分を適正に行うことで、良好な生活環境をつくります。

基本方針3 市民の視点に立ったごみ処理システムの構築

市民の関心や要望の強い事業に優先的に取り組むなど、市民の理解と協力が得られるような、適切で満足度の高いごみ処理システムを構築します。

基本方針4 経済的・効率的なごみ処理の推進

費用対効果を考慮した事業運営を行うことや各主体が適切な費用負担をすることにより、将来にわたって持続的かつ安定的なごみ処理ができるよう、健全で効率的なごみ処理を推進します。

2. 計画の目標値

この計画では、基準年度を平成21年度とし、目標年度の平成32年度における数値目標を設定して、ごみの排出抑制及び資源化を推進し、最終処分量の抑制を図っていきます。

なお、目標値の設定に当たっては、目標年度における人口を推計（37ページ参照）し、本市、国及び北海道の各種計画等との比較（37～40ページ参照）を行うとともに、基準年度における本市の水準を勘案しています。

◆ 排出抑制の目標値 ◆

平成32年度における1人1日当たりのごみ排出量を基準年度より約3%削減し、910g以下とします。

◆ 資源化の目標値 ◆

平成32年度におけるリサイクル率を基準年度より3.6ポイント向上させ、約33%とします。

◆ 最終処分の目標値 ◆

最終処分場の供用期間を当初計画の15年から5年以上延長させます。

◆ 排出抑制の目標値 ◆

総排出量とは、家庭系ごみ及び事業系ごみの合計で、家庭系ごみには燃やせるごみ、燃やせないごみ及び大型ごみ（以下「家庭系廃棄ごみ」という。）、資源物、危険ごみのほか集団資源回収量も含まれますが、人口が減少傾向にある中で排出抑制を推進するための目標値は、1人1日当たりの排出量を用いることが適当です。

1人1日当たりの家庭系ごみ排出量については、平成21年度に比べ平成32年度までに、家庭系廃棄ごみを約8%削減する一方、集団資源回収量などを約11%増加させることで、家庭系ごみ全体として695g以下とします。

また、事業系ごみ排出量については、平成21年度に比べ平成32年度までに、約10%削減します。

以上により、1人1日当たりの排出量については約3%減の910g以下とすることを目指します。なお、中間目標年度の平成27年度については約2%減の920g以下とします。

区 分		平成21年度 (基準年度)	平成27年度 (中間目標年度)	平成32年度(目標年度)		
				目標値	基準年度比較	
					増 減	増減率
総 量	排 出 量	41,837t	40,000t	38,360t	-3,477t	-8.3%
	家庭系ごみ	31,770t	30,430t	29,300t	-2,470t	-7.8%
	家庭系廃棄ごみ	22,508t	20,880t	19,590t	-2,918t	-13.0%
	集団資源回収等	9,262t	9,550t	9,710t	448t	4.8%
	事業系ごみ	10,067t	9,570t	9,060t	-1,007t	-10.0%
1 人 1 日 当 た り	排 出 量	939g	920g	910g	-29g	-3.1%
	家庭系ごみ	713g	700g	695g	-18g	-2.5%
	家庭系廃棄ごみ	505g	480g	465g	-40g	-7.9%
	集団資源回収等	208g	220g	230g	22g	10.6%

◆ 資源化の目標値 ◆

資源化の目標値（リサイクル率）については、排出抑制施策、集団資源回収の奨励及び分別の徹底等の資源化施策を推進することで、平成21年度の29.4%に比べ平成32年度までに、3.6ポイント増の約33%に引き上げることを目指します。

なお、中間目標年度の平成27年度については1.6ポイント増の約31%以上とします。

区 分	平成21年度 (基準年度)	平成27年度 (中間目標年度)	平成32年度(目標年度)		
			目標値	基準年度比較	
				増 減	増減率
総 資 源 化 量	12,281t	12,450t	12,510t	229t	1.9%
リ サ イ ク ル 率	29.4%	約31%	約33%	3.6ポイント	—

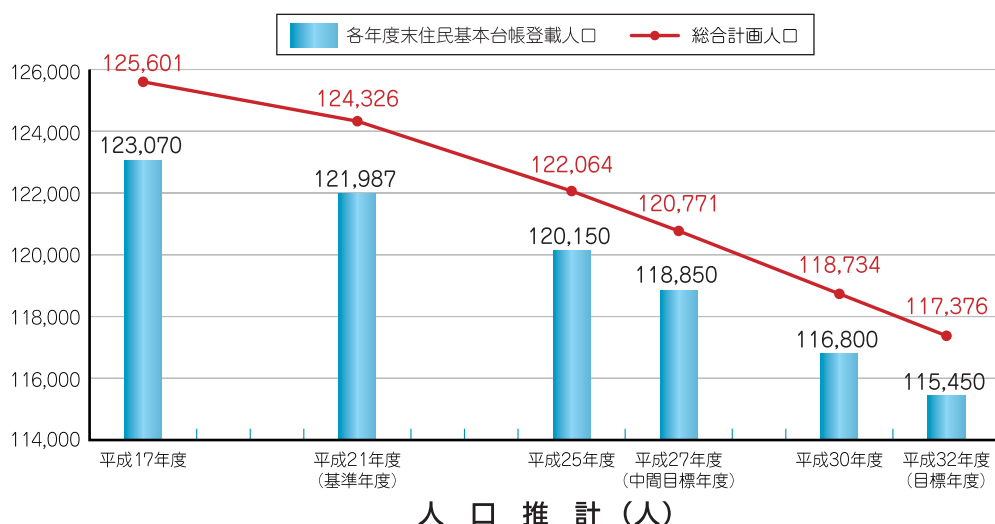
◆ 最終処分の目標値 ◆

最終処分量は、環境クリーンセンターの施設特性などにより既に極小化されている中、ごみ量ばかりでなく、分別区分や埋立てが必要な残渣の処理方法などにも影響されるため、最終処分の目標値として削減量や削減率を設定することは難しい状況にあります。

このことから、ごみの排出抑制や資源化を引き続き推進し、計画期間全体を通して最終処分量を抑制していくことにより、平成16年度から平成30年度までの供用年数（15年間）を5年以上延長させることを最終処分の目標値とします。

人口推計

少子高齢化や景気低迷等により、本市の人口は平成18年度から減少に転じており、こうした傾向は今後も続くものと思われます。こうした中、この計画における人口推計は、基準年度（平成21年度）末の住民基本台帳登録人口^{*}を起点として、その後の減少を江別市総合計画の人口推計に準じて算定し、目標年度（平成32年度）における人口を基準年度から5.4%減の115,450人と推計します。



各種計画目標との比較

(1) 本市の計画目標との比較

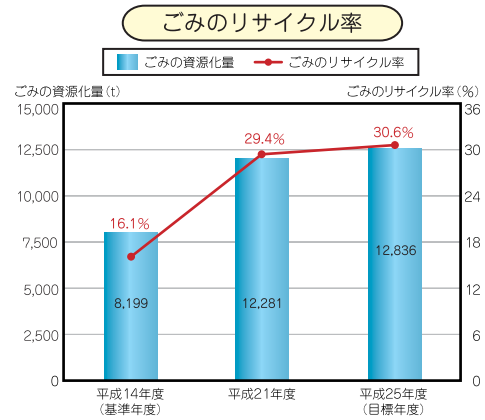
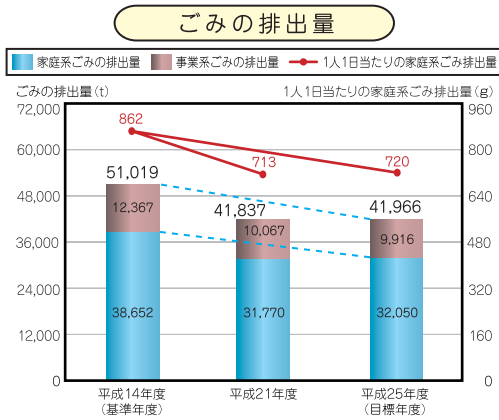
本市は、江別市総合計画（第5次）及び前計画において、ごみの排出量、リサイクル率、最終処分量等について目標値を設定しています。

平成21年度における本市実績値と両計画のこれら目標値を比較すると、ごみの排出量、最終処分量は既に達している状況にありますが、リサイクル率については、集団資源回収量の減少等によりこの目標を若干下回っています。

* 住民基本台帳登録人口と総合計画人口：総合計画人口は、住民基本台帳に登録されていない人口を含む国勢調査人口（5年毎）を基に推計しており、住民基本台帳登録人口を用いる本計画の人口推計より多い数値となっている。

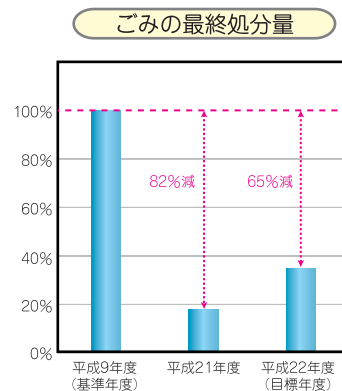
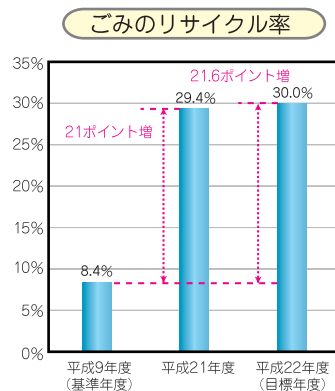
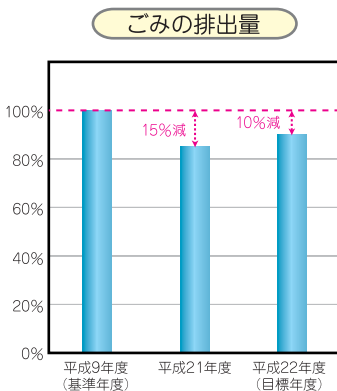
① 江別市総合計画目標値との比較

区 分	基準年度	目標年度	目標 値	平成21年度実績値
ごみの排出量	平成14年度	平成25年度	41,966tに削減	41,837t
1人1日当たりの家庭系ごみ排出量			720gに削減	713g
ごみのリサイクル率			30.6%に増加	29.4%



② 前計画目標値との比較

区 分	基準年度	目標年度	目標 値	平成21年度実績値
ごみの排出量	平成9年度	平成22年度	10%削減	15%削減
ごみのリサイクル率			30%に増加	29.4%
ごみの最終処分量			65%削減	82%削減

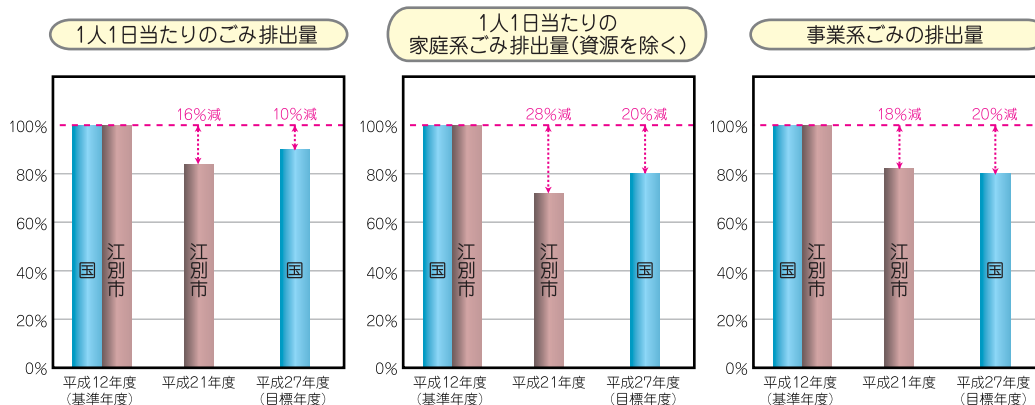


(2) 国の計画・方針の目標との比較

国は2つの計画と1つの方針を定め、ごみの排出量、リサイクル率、最終処分量等について目標値を設定していますが、平成21年度における本市実績値は、事業系ごみの排出量を除き、いずれもこの目標値に達しています。

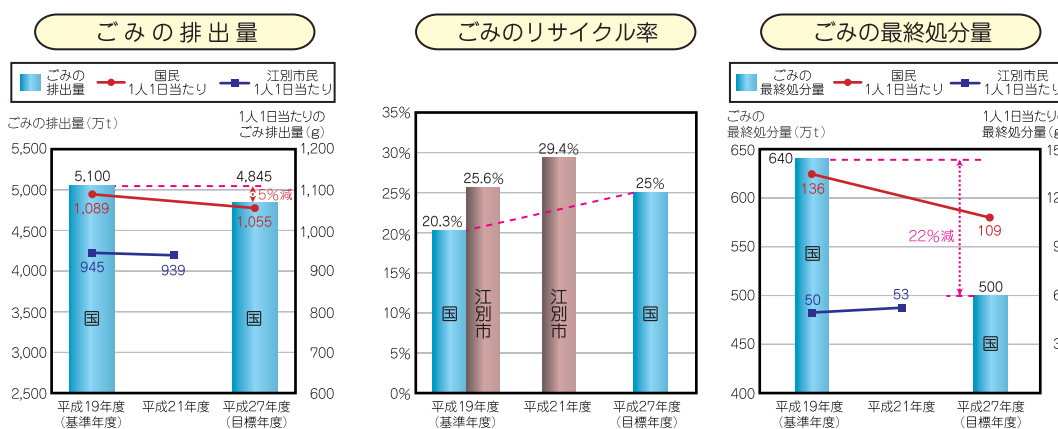
① 「第2次循環型社会形成推進基本計画」(平成20年3月策定)の目標値との比較

区 分	基準年度	目標年度	目標値	平成21年度 江別市実績値
1人1日当たりのごみ排出量	平成12年度	平成27年度	約10%削減	16%削減
1人1日当たりの家庭系ごみ排出量(資源を除く)			約20%削減	28%削減
事業系ごみの排出量			約20%削減	18%削減



② 「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」(平成22年12月策定)の目標値との比較

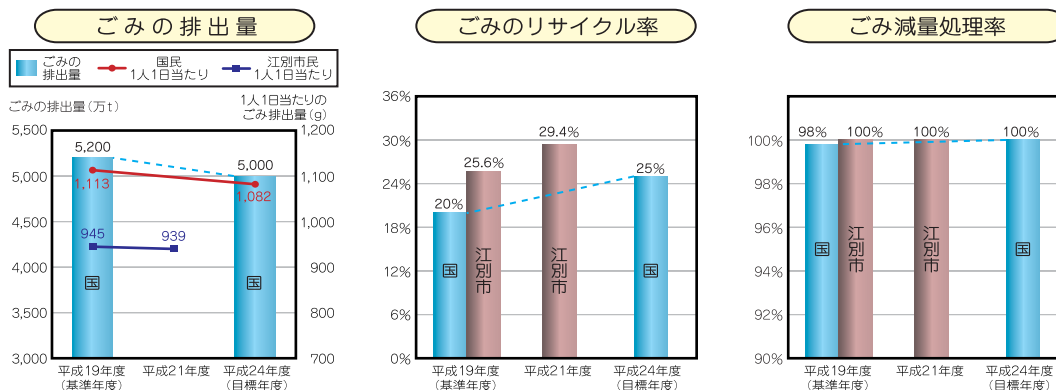
区 分	基準年度	目標年度	目標値	平成21年度 江別市実績値
ごみの排出量(1人1日当たりに換算*)	平成19年度	平成27年度	5%削減 (約1,055gに削減)	— (939g)
ごみのリサイクル率			約25%に増加	29.4%
ごみの最終処分量(1人1日当たりに換算*)			約22%削減 (約109gに削減)	— (53g)



* 国民1人1日当たりの換算方法：環境省のガイドライン(一般廃棄物処理システム)に基づき、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」における中位予測人口を用いて算出(平成27年度：125,430千人)。

③ 「廃棄物処理施設整備計画」(平成20年3月策定)の目標値との比較

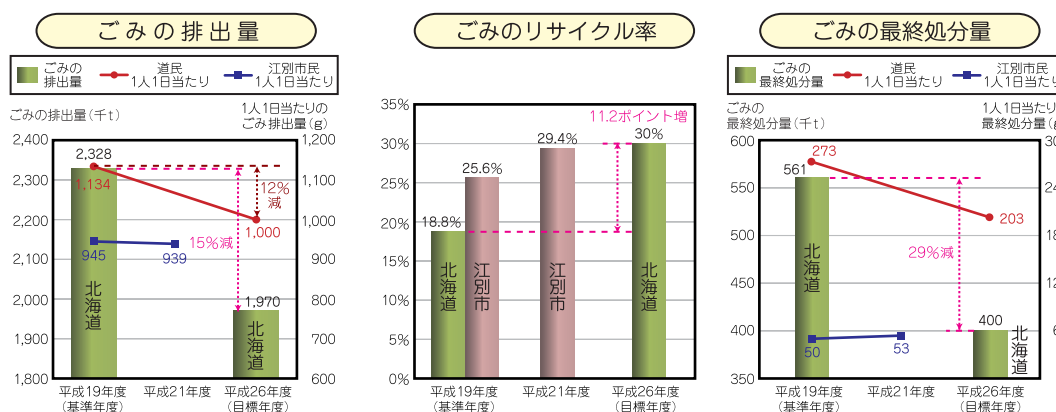
区 分	基準年度	目標年度	目 標 値	平成21年度 江別市実績値
ごみの排出量 (1人1日当りに換算*1)	平成19年度 (※見込み数値)	平成24年度	5,000万tに削減 (約1,082gに削減)	— (939g)
ごみのリサイクル率			25%に増加	29.4%
ごみ減量処理率*2			概ね100%	概ね100%



(3) 北海道の計画目標との比較

北海道は、平成22年4月に策定した北海道循環型社会形成推進基本計画及びその個別計画である北海道廃棄物処理計画において、ごみの排出量、リサイクル率、最終処分量等について目標値を設定していますが、平成21年度における本市実績値は、リサイクル率を除き、いずれもこの目標値に達しています。

区 分	基準年度	目標年度	目 標 値	平成21年度 江別市実績値
ごみの排出量 (1人1日当りに換算)	平成19年度	平成26年度	1,970千tに削減 (約1,000gに削減)	— (939g)
ごみのリサイクル率			約30%に増加	29.4%
ごみの最終処分量 (1人1日当りに換算)			400千tに削減 (約203gに削減)	— (53g)



*1 国民1人1日当たりの換算方法：39ページ参照（平成19年度：127,694千人、平成24年度：126,605千人）

*2 ごみ減量処理率：処理・処分されたごみに対する焼却・破砕・資源化などの処理を行ったごみの割合。

$$\text{算式：} \frac{\text{中間処理量} + \text{直接資源化量}}{\text{計画処理量}}$$